

REPORT 報告とお知らせ

INFORMATION

お問い合わせもうしこみは
ユニセフ子どもネット事務局
 (日本ユニセフ協会 広報室内)
 住所: 〒108-8607 東京都港区高輪4-6-12
 電話: 03-5789-2016
 ファックス: 03-5789-2036
 電子メール: jcuinfo@unicef.or.jp

お知らせ Information

新着資料 「ユニセフ年次報告」のお知らせ!

ユニセフ本部が毎年発行している「ユニセフ年次報告」の日本語版が、今年もできあがりました。2002年の1月から12月までのあいだ、ユニセフが現地でどのような活動をしてきたかを報告している資料です。おとな向けに作られた資料なので、難しいかもしれませんが、もっとユニセフの活動をくわしく知りたい人はぜひ読んでみてください。ひとり1冊まで送料をふくめ無料でお送りしています。希望する人は、ユニセフ子どもネット事務局までご連絡ください。



DVD + BOOK ビデオ 「ようこそボクらの学校へ」

日本ユニセフ協会が制作に協力したDVD+BOOK「ようこそボクらの学校へ」が、11月25日に発売されました。ジャーナリストの後藤 健二さんが、アフガニスタン、イラク、シエラレオネなどの、困難な状況にある子どもたちを取材し、「学校」という場を通して、未来へ生きる希望をもってゆくというストーリーを映像でお伝えします。また、現地で子どもたちを支援しているユニセフの活動もたくさん紹介されています。



DVD + BOOK 「ようこそボクらの学校へ」
 ・DVD (全8話 89分) + 解説本 (64ページ カラー) 3800円
 ・ビデオ (全6話 68分) 4000円 ビデオには解説本が付きません
 ※価格はすべて税別です
 著者: 後藤 健二 (インデペンデント・プレス)
 発行: NHK出版 (日本放送出版協会)
 お問い合わせ: 全国の書店またはNHK出版販売部 03-3780-3339

映画 「イン・ディス・ワールド」 全国で公開!

日本ユニセフ協会が推薦する映画「イン・ディス・ワールド」が、11月15日より公開されています。パキスタンの難民キャンプで育ったアフガン人の少年ジャマルとエナヤットの亡命の旅をおして、「亡命」「移民」「難民」という問題を描いた作品として評価されています。2002年のベルリン映画祭では、グランプリ(金熊賞)を受賞しました。実際に主役を演じている二人もベジャワール難民キャンプで生まれ育った子どもたちです。東京、名古屋や大阪など、全国各地で公開されます。くわしい内容や、上映する劇場については、ホームページwww.inthisworld.jpへ。



試写会に行ってきました!
 10月30日に東京の渋谷にあるUNハウス(国連大学本部ビル)にて、中学生から大学生までを対象とした試写会が開催されました。3人のユニセフ子どもネットワークが参加してくれました。

この映画をみて最初に感じたことは、私と同じくらいの年齢の子どもたちが、私よりもずっと過酷な運命をせおって生きているということについての驚きです。私は何も考えず、毎日平凡に暮らしています。そんな自分を恥ずかしく思います。また、その困難に立ちむかう勇氣を持っているジャマル君を、とてもうらやましく思いました。

私たちは、食べるものもじゅうぶんあって、学校に通って、とても平和な世界に生きています。でも私は本当に幸せなのですか?何かたりないものがあります。平和であるということは、ただ自分が平和なところに生まれて育っただけで、自分で発見したり、努力したりして得ているものではないと思います。人からもらったものを「幸せ」と考えていいのでしょうか。ジャマル君のような難民の人たちは、「幸せ」というものをどのように感じているのでしょうか。とても考えさせられました。この映画をみることで、良かったと思います。(土屋 朋子 16歳)

報告 Report

ユニセフ子どもネット@関東・有志学習会報告 「子どもの権利」～知ろう!学ぼう!考えよう!～

11月9日ユニセフハウスで、ユニセフ子どもネット@関東・有志学習会が開かれました。内田 沙希さん、奥村 久実子さんをはじめ、関東に住むネットワークの有志が、子どもの権利を知り、学び、考えるということを目的に企画したワークショップで、15人が参加してくれました。

当日は、まず私たちに「子どもの権利」があると思うか、みんなで考えました。そしてビデオを見て、感想を話しあいながら世界からなくしたものを書き出しました。それらをなくすために政府にやってもらいたいこと、また自分たちにできることを考えました。学習会に参加した今蘭さんの感想をご紹介します。



会場の様子!でした ©日本ユニセフ協会

「子どもの権利」についてのビデオはとても衝撃的でした。子どもたちが座ってはたおりとかマッチの選別などの仕事をしていたのです。子どもの指は細くて、そういう仕事に向いているのだとか。1本目のビデオの中の子どもたちは、権利が守られてとても幸せそうだったというのに。

やはり世界には、暗い現実が数多くあります。でも、そういったことから、目を離してはいけないと思います。私はビデオのナレーションで言われて初めて、気付いたことがあります。自分が「難民」について見聞きすることに、慣れてしまっていたということです。とても心がいたみました。

みんなでの話し合いのとき、募金の使いみちのことで、例えば政治家に会って話しに行くなど、私がかつて考えたことがないアイデアが参加者からいろいろ出て、とても新鮮でした。このようなかたちで話し合う機会を、また作ってほしいと思います。

今回のワークショップは、参加人数がそれほど多くありませんでしたが、それがあってアットホームな話し合いに結びつき、良かった面もあったと思います。このワークショップで権利について、前よりももっと深く知り、考えることができてよかったです。

まわりの人にも、人権をもっと知ってもらいたいですね。そして、行動するためには、さらに多くの人数が必要かもしれません。これからも、日常生活のなかで、小さなことから世界をよくする努力をしていこう、とあらためて思いました。(今蘭 美都 13歳)

学習会で出た意見などくわしい内容は、ホームページに掲載しています。
 ユニセフ子どもネットホームページ <http://www.unicef.or.jp/kodomo/net/net.htm>

LETTERS ユニセフ子どもネットニュース NO.6を読んで ネットワーカーからの感想

- 前号では、イラク戦争についてみなさんの意見を紹介しました。また特集では、夏に開かれた「ユニセフ子どもセミナー2003」の報告や、アフリカで起こっていることについて取りあげました。
- ポリオやマラリアになることも一人でもたすかってほしいです。ハンフォードちゃんも、リッパな歌手になれたらいいのなあと思いました。そして、なによりも戦争はかわいそうではすまないのだと思いました。(渡辺 麗 10歳)
- 今回第6号を読んで、日本は本当に幸せな国だと思いました。幸せすぎて、世界の国ぐにで起こっている危機にも全く興味が無い人が多いのではないのでしょうか?もっと世界中が平和になるためには、世界中の人びとが本当の幸せを願い、積極的に行動することが大事だと思います。時間がかかることだけれど、そこから始めないと何も変わらないと思います。(野村 春央里 14歳)
- 戦争が続いているので、悲しくなりました。でも、ユニセフの支援が子どもたちに届いて、子どもたちが喜んでくれていると知って少し安心しました。これから、もっとたくさんの人びとに平和で幸せな生活を送ってもらいたいです。(川口 奈々 13歳)
- イラクの国連本部爆発テロについての記事を読んで、人間は昔から、平和と豊かな生活を追い求めているのに、時だけが過ぎてゆき、とり残されたり逆行しているところもあると感じました。平和は願うだけでは手に入らない、勝ち取らなくてはいけないのだと強く心に思いました。(須藤 紗織 17歳)
- セミナーの様子や内容を見て、参加できたよかったです。悔やみません。「国内行動計画」は子どもたちのためのものならば、子どもたちの意見を聞き上げなければ十分なものにはなりません。小さな声が大きな声につながり、世界中の人びとと協力できたらと思う。日本も本当の「国内行動計画」をして欲しいです。(熊谷 真純 15歳)
- 日本では、昔のもの、あまり使わないものという印象がある数帳で、30秒に1人という割合で命を失っている子どもたちを救えるなんて、すごいと思いました。日本などの進んだ技術を持ちこめば、もっとたくさん命を救えるのではないかと思っています。(山本 春奈 11歳)